

# 広報 きたもと

9月  
2016 No.943

特集面

きっと、もっと、きたも트가好きになる 旬な話題をお届け!

## 北本の今昔 中山道 いまむかし



多聞寺交差点付近 (左:昭和42年 右:現在) :昭和42年5月14日に大宮から鴻巣までの中山道で、国民体育大会秋季大会のリハーサルが行われました。



北本駅付近(東口ほぼ中央) (左:昭和30年 右:現在)

# 中山道に 残る足跡

北本の歴史を探る ②



### 初期の中山道(昭和35年頃)

江戸初期の中山道は、現在の中山道筋とは多少異なっていました。

現在の中山道の西隣に平行して走る細い一本の道(写真中央)が江戸時代初期の中山道といわれています。

写真は、北本農協中丸支所(当時)付近から鴻巣方面を望んだものです。右の白い建物は、現在の埼玉りそな銀行です。

# 中山道に残る足跡

北本の歴史を探る ②



北本駅付近(昭和30年)

北本市を南北に貫くように通る「中山道」は古い歴史を持っています。国の幹線道路として本格的に整備されたのは今から約400年以上も前のことです。以来江戸時代を通じて、人々の往来が盛んであり、歴史上著名な人物も数多く通っていました。

例えば「石戸蒲ザクラ」の見事なスケッチを描いた渡辺華山は、板橋宿から中山道を通って東光寺へ来ています。さらに、幕末でいえば新撰組の前身である浪士組が、中山道を北上して京都へ向かいました。また、逆に徳川家茂に嫁ぐために京都を出発した皇女和宮は、今の岐阜や長野といった山岳地帯から関東平野へ入り、中山道を南下して江戸へ向かいました。

こうした歴史の名残を求めて、街道を実際に歩く人たちがたくさん見られます。

現代になつて近代的な建物が立ちならび、自動車を通る街並みになつても、その地を物語るものはよく残されています。

今回は北本市に残る江戸の道を改めて訪ね、私たちの街の歴史を探ります。

# 中山道を彩る文化財

埼玉県内の中山道は、ほぼ現在のJ-R高崎線に沿っています。道筋は土地の高いところを選んで造られているようで、北本市内の約5.3km部分は、馬の背のよくな台地の上を通っています。

南には桶川宿があり、北へ向かうと鴻巣宿へ到達します。北本市域はこれらの宿場に挟まれた「間の宿(あいのしゅく)」としてありました。北本市域はこれら江戸時代では、中山道は南から下石戸下村、下中丸村、本宿村、東間村、深井村を貫いていました。



本宿天神社の「算額」・「幟」

本宿天神社には、明治24(1891)年に奉納された市指定文化財の「算額」があります。算額は和算という日本独自の数学の問題が記されていて、その解法があわせて添えられ、絵馬の一種として奉納されたものです。

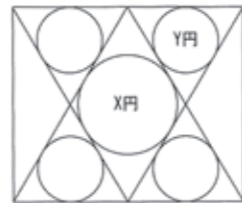
また、神社の祭礼で飾られる幟は、江戸を中心として活躍した越後出身の書家、中沢雪城の書によるものです。これは、江戸時代末期の書家の筆跡を今に伝える資料として、同じく江戸時代に書かれた石戸宿天神社の幟とあわせて今年新たに市指定文化財となりました。

## コラム Column

### 算額に記された問題

本宿天神社に奉納された算額の問題を現代語訳して一つ紹介します。

「図のように長方形の中に斜線を引き、これを隔ててX円を1つ、Y円を4つ入れ、X円の直径を55mmとすれば、Y円の直径は？」



これは本宿村の清水良蔵が解いた問題です。実際は三角関数を駆使しなければ解けない難問で、和算の水準の高さに驚かされます。



## ムクロジ



多聞寺境内にあるムクロジは樹齢約200年の古木で、埼玉県指定天然記念物にもなっています。「無患子」とも書くので、子どもが病気にかららないとも読め、縁起のいい木としても有名です。

ムクロジの開花は5〜6月で、散った花びらが白い絨毯のように地面を覆うこともあります。

羽根突き(羽根の先についている玉はこのムクロジの種で、他には数珠にも使われていたようです)。

## 立場(たてば)



昭和25(1950)年頃

江戸時代、中山道を往来する人々の疲れを癒す憩いの場として機能した場所が「立場」と呼ばれる休憩所です。立場内には茶屋や売店が設けられていました。また、旅の情報交換なども行われ、旅人にとっては未知の道中を行くために、たいへん役に立ったところでした。

市内には本宿の交差点付近と三軒茶屋の交差点付近に立場があったといわれています。

立場は宿場のない「間の宿」に置かれました。

## 勝林寺



江戸時代後期に編纂された地誌『新編武蔵風土記稿』に「勝林寺は浄土宗で鴻巣宿、勝願寺の末寺である。本尊は阿弥陀如来を安置する。寺を開いたのは日誉(にちよ)で承応二元(1652)年に亡くなった。日誉は伊奈熊蔵の弟であるが、髪を落とし勝願寺で僧となった。後に勝林寺を開いた。」とあります。

日誉は、初代関東代官で荒川の瀬替えなども行った伊奈忠次の息子です。幼少から仏門に入り、兄の依頼で伊奈氏の菩提寺として源長寺(川口市)の再興などを行いました。勝林寺には日誉の墓が現存します。



## 一里塚



中山道には距離の目安のため一里(約4km)毎に塚が整備されました。塚の上は榎が植えられ、旅人達が木陰で休めるよう配慮されました。

初期の中山道沿いには、慶長17(1612)年に一里塚が整備されました。本来は東塚(旧中丸村)・西塚(旧馬室村)の2基が存在しましたが、東塚が明治16(1883)年、高崎線の敷設の際に半分が取り壊され、さらに昭和3(1928)年の高崎線複線化に伴って消滅し、現在は鴻巣市域に西塚が残るのみとなっています。

一里塚の存在は、中山道の道筋の変化を類推する上で貴重な資料といえます。

## 東間・浅間神社の富士塚と初山

東間の浅間神社が鎮座する山を「富士塚」といい、社殿にはコノハナサクヤヒメが祀られています。中腹に立つ石造物から、享保8(1723)年にはすでに塚が築かれていたと考えられます。

一般的に富士塚とは、安永8(1799)年、江戸高田の水稲荷境内(現 早稲田大学構内)に高田藤四郎によって築かれた塚を最古の例として、富士山を信仰する富士講と呼ばれる集団が造ったものをいいます。しかし「東間の富士塚」には、築造にあたって富士講が関与した形跡がありません。実はこの富士塚



は、江戸時代後期に富士講が流行する以前の、修験道などの古い富士信仰に基づく遺構と考えられます。貴重な文化遺産として、荒井に所在する竹の子浅間神社の富士塚とともに市指定文化財になっています。

また、富士山の山開きにあわせた6月30日7月1日には、その年に産まれた赤ちゃんを連れて参拝し、健やかな成長を祈る「初山参り」が行われます。参拝した赤ちゃんは額にハンコを押され、うちわやお札をもらって帰ります。毎年多くの参拝者が訪れる祭礼は北本の初夏を彩る風物詩となっています。



## おしゃもじ様

ニツ家1丁目



「ニツ家で祀られている「おしゃもじ様」は、病氣平癒にご利益のある神様といわれています。奉納されている「しゃもじ」を借りてきてご飯を盛って食べ、治ったら新しい「しゃもじ」を返す慣わしが現在でも続いています。また、足の病氣を治してくれる神様でもあり、かつては「わらじ」を奉納して祈願しましたが、現在ではスニーカーやサンダルなどが供えられていることもあります。

# 北本と中山道

## 中山道の成立

中山道は徳川家康の関東入国後に幕府が整備した五街道のひとつです。そのルートは江戸日本橋を基点として埼玉県域を通過し内陸山岳地帯を通り、滋賀県の草津で東海道と合流して京都三条大橋で終点となりました。

街道筋には宿場(宿駅)が設置され、江戸時代中ごろまでに69か所が整備されました。このうち県内には蕨、浦和、大宮、上尾、桶川、鴻巣、熊谷、深谷、本庄の宿駅が設けられ、旅人の宿泊、物流、通信を扱う地域の拠点として機能していました。

## 宿場の移転と本宿村

もともとは市域の本宿付近に宿場があったといわれています。ところがこの宿場は文禄年間(1592~96)に現在の鴻巣市域に移されたとされています。その理由は定かではありませんが、熊谷、桶川間の中間地点が鴻巣であったことや、文禄2(1593)年に徳川家康の宿泊施設として、今のJR鴻巣駅付近に



鴻巣御殿が建てられたことなどが考えられています。

鴻巣に宿場が移って以降は、最初に宿場が設けられた本宿周辺は「元の鴻巣」という意味で元鴻巣村と呼ばれました。それが元禄期(1688~1704)からはもともとの宿場ということから本宿村と変化しました。

## 「間の宿」としての北本市域

間の宿とは文字通り宿場と宿場に挟まれた地域で、旅人の休憩所を提供した場所をいいます。宿場以外に旅人の宿泊を許さなかった江戸時代にあつては、間の宿は単なる通

過地点であるともいえます。

しかし、人々の往来が多くなるにつれ、宿場だけではさばき切れなくなった役割を、補助的に支える地域ともなっていました。

## 発掘調査で現れた中山道の姿

平成22年8月、東保育所の建設工事に先立って、遺跡の発掘調査が行われました。下原遺跡と呼ばれるその遺跡は、中山道に面していたため、それに関わる遺構の発見が期待されていました。

4か月にも及ぶ調査の結果、現道の直下から中山道と並行するように溝跡が確認されました。溝跡は幅80cm、深さ50cm程で、最初の溝が埋まった後も繰り返し掘り直して使

用されていました。

寛政12(1800)年から幕府の命によって編纂された『中山道分間延絵図(なかせんどうぶんけんのべえず)』によると、「悪水堀」と呼ばれる排水のための側溝が描かれています。見つかった溝はこれにあたり、かつての中山道の形態が窺える発見となりました。



## 中山道? 中仙道?

「中仙道」と書かれた刊行物などを見かけたことはありませんか。実は、享保元(1716)年に江戸幕府(道中奉行)は「仙」を「山」に統一するように指示を出しており、正解は「中山道」となります。しかし、庶民までその使い分けは徹底されていなかったようで、御触書が出て以降も変わらず「中仙道」の文字は使われ続けていたのです。

## 鴻巣御殿とお茶屋跡

江戸時代の初め、歴代将軍は中山道沿いに造られた「鴻巣御殿」を拠点に、鷹狩りと称して天領内の視察を行っていました。

たびたび北本市域の石戸宿方面にも来ていたようで、休憩所としていた場所が今でも「お茶屋跡」として子供公園の西側にあります。お茶屋は正保年間(1644~48)頃まであったといわれています。

